



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年8月10日

上場会社名 株式会社中村超硬 上場取引所 東
 コード番号 6166 URL <http://www.nakamura-gp.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 誠
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 田植 啓之 (TEL) 072-274-1072
 四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	644	△42.5	△88	—	△87	—	△108	—
2023年3月期第1四半期	1,122	△2.7	92	△42.7	109	△33.0	75	△40.9

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 △113百万円(—%) 2023年3月期第1四半期 70百万円(△44.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	△9.89	—
2023年3月期第1四半期	6.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	6,499	600	9.0
2023年3月期	4,688	714	15.0

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 588百万円 2023年3月期 701百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,600	8.4	100	201.6	50	△23.8	1,100	—	99.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 一 、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	11,020,900株	2023年3月期	11,020,900株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	一株	2023年3月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	11,020,900株	2023年3月期1Q	11,020,900株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけの変更や行動制限の撤廃等に伴い、経済活動の正常化が進み、緩やかな回復基調となりました。しかしながら世界経済においては、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や、原材料・エネルギー価格の高騰に端を発したインフレの進行、世界的な金融引き締め政策の実施による為替変動などの影響により、依然として不透明な状況が続いており、わが国経済を取り巻く世界情勢は、予断を許さない状況が続いております。

このような状況下、当社グループは、特殊精密機器事業において国内需要の回復により工作機械向け耐摩工具関連分野が上昇基調に転ずるなど堅調に推移したものの、化学繊維用紡糸ノズル事業において、中国経済停滞の影響を受け、中国向け不織布関連ノズルの受注が大きく落ち込むこととなり、厳しい事業環境となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は644百万円（前年同期比42.5%減）、営業損失は88百万円（前年同期は92百万円の営業利益）、経常損失は87百万円（前年同期は109百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は108百万円（前年同期は75百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 特殊精密機器事業

特殊精密機器事業については、工作機械向け耐摩工具関連分野については、国内需要の回復を受け、緩やかながらも上昇基調に転じたものの、産業機械向け実装機用ノズル分野については、中国経済の停滞が長期化している影響から低調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は206百万円（前年同期比6.9%増）、セグメント利益は11百万円（前年同期は6百万円のセグメント損失）となりました。

② 化学繊維用紡糸ノズル事業

化学繊維用紡糸ノズル事業については、風力発電用ブレード向け炭素繊維用紡糸ノズルの受注は、前期に引き続き好調に推移いたしましたが、炭素繊維以外の化学繊維用ノズルの受注は低調に推移いたしました。特に中国経済停滞の影響により中国向け不織布関連ノズルの受注が大きく落ち込むこととなりました。

これらの結果、売上高は420百万円（前年同期比49.9%減）、セグメント利益は20百万円（前年同期比87.2%減）と、不織布製造装置の収益を計上した前年同期と比較すると大幅な減収減益となりました。

③ D-N e x t 事業（旧電子材料スライス周辺事業）

当社では太陽光発電向けダイヤモンドワイヤ生産・販売事業からの撤退後、事業方針を転換し半導体向けダイヤモンドワイヤ及びダイヤモンドワイヤ製造装置の生産・販売事業を新たに立ち上げるべく取り組んでまいりました。当連結会計年度において、これら新規事業の収益事業化を達成し、構造改革を完了するべく、セグメント名称を「次世代のダイヤモンドワイヤ関連事業」を意味する「D-N e x t 事業」に変更し、より強い決意をもって事業立ち上げに取り組んでまいります。

D-N e x t 事業については、半導体分野における在庫調整の影響による国内のウエハ受託スライス企業の稼働率低下により、ダイヤモンドワイヤの売上は低調に推移したものの、当社の半導体向けダイヤモンドワイヤを正式採用する企業が着実に増えており、当第1四半期連結累計期間において新たな国内大手顧客1社に対し量産販売を開始いたしました。また、ダイヤモンドワイヤ製造装置販売については、インド市場向けを中心に複数企業との商談を進めております。

これらの結果、売上高は16百万円（前年同期比11.0%減）、セグメント損失は82百万円（前年同期は72百万円のセグメント損失）となりました。

④ マテリアルサイエンス事業

新規事業として取り組んでいるナノサイズゼオライトについて、量産顧客獲得を目指したサンプルの提供や展示会出展をはじめとする認知度向上のための取り組みを継続しております。

なお、前年においてはパイロットプラント立ち上げに係る山全社からの受託収入を計上したため、当期実績は前年同期を大幅に下回る結果となり、売上高は1百万円（前年同期比は98.0%減）、セグメント損失は42百万円（前年同期は10百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当社連結子会社の日本ノズル株式会社における新工場の建設及び大型メルトブローンノズル・ダイ製造設備に関する投資として、機械装置及び運搬具が1,233百万円増加、建物及び構築物が551百万円増加したこと等により、総資産は前連結会計年度末に比べ1,811百万円増加し6,499百万円となりました。

② 負債

上記工場建設及び当該設備投資に係る資金として、短期借入金が1,200百万円増加、長期借入金が700百万円増加、1年以内返済予定の長期借入金が66百万円増加したこと等により、負債は前連結会計年度末に比べ1,925百万円増加し5,898百万円となりました。

③ 純資産

利益剰余金が108百万円減少したこと等により、純資産は前連結会計年度末に比べ114百万円減少し600百万円となりました。

この結果、自己資本比率は9.0%（前連結会計年度末は15.0%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月12日付決算短信において、当期の連結業績予想数値を公表しておりますが、その際に記載した予想数値策定における前提条件から大幅な変更が見られないため、従前の予想数値を据え置くことといたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,999,126	2,013,227
受取手形及び売掛金	473,249	350,379
商品及び製品	30,516	82,040
仕掛品	385,721	410,516
原材料及び貯蔵品	123,040	142,836
その他	105,809	297,233
流動資産合計	3,117,464	3,296,234
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	500,173	1,051,513
機械装置及び運搬具(純額)	226,579	1,460,114
土地	614,882	614,882
その他(純額)	178,936	27,924
有形固定資産合計	1,520,571	3,154,433
無形固定資産	17,815	16,850
投資その他の資産		
投資その他の資産	66,654	66,287
貸倒引当金	△33,923	△33,923
投資その他の資産合計	32,730	32,363
固定資産合計	1,571,117	3,203,647
資産合計	4,688,582	6,499,881

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	247,675	240,770
前受金	186,666	186,666
契約負債	226,439	236,241
短期借入金	2,040,000	3,240,000
1年内返済予定の長期借入金	133,333	199,989
リース債務	19,407	19,587
未払法人税等	13,047	1,114
賞与引当金	60,743	21,260
受注損失引当金	3,079	6,725
その他	198,962	182,959
流動負債合計	3,129,355	4,335,315
固定負債		
長期借入金	266,666	966,677
リース債務	36,464	55,775
退職給付に係る負債	231,764	229,843
資産除去債務	49,371	49,546
その他	259,987	261,759
固定負債合計	844,255	1,563,601
負債合計	3,973,611	5,898,916
純資産の部		
株主資本		
資本金	349,042	349,042
資本剰余金	299,042	299,042
利益剰余金	71,192	△37,796
株主資本合計	719,277	610,288
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△601	△566
繰延ヘッジ損益	△1,345	△2,621
為替換算調整勘定	△15,842	△18,940
その他の包括利益累計額合計	△17,789	△22,128
新株予約権	13,483	12,804
非支配株主持分	-	-
純資産合計	714,971	600,965
負債純資産合計	4,688,582	6,499,881

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
売上高	1,122,453	644,930
売上原価	797,199	489,556
売上総利益	325,254	155,374
販売費及び一般管理費	232,277	243,406
営業利益又は営業損失(△)	92,976	△88,031
営業外収益		
受取利息	215	22
受取配当金	48	25
助成金収入	-	1,071
為替差益	19,933	7,979
その他	1,170	636
営業外収益合計	21,368	9,735
営業外費用		
支払利息	4,257	8,663
その他	867	950
営業外費用合計	5,124	9,613
経常利益又は経常損失(△)	109,220	△87,910
特別利益		
新株予約権戻入益	169	678
特別利益合計	169	678
特別損失		
固定資産除却損	0	-
減損損失	3,220	190
訴訟関連費用	12,119	19,373
特別損失合計	15,339	19,564
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	94,050	△106,795
法人税、住民税及び事業税	13,675	264
法人税等調整額	4,435	1,929
法人税等合計	18,110	2,193
四半期純利益又は四半期純損失(△)	75,939	△108,989
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	75,939	△108,989

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	75,939	△108,989
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	39	35
繰延ヘッジ損益	775	△1,275
為替換算調整勘定	△6,633	△3,098
その他の包括利益合計	△5,819	△4,338
四半期包括利益	70,120	△113,327
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	70,120	△113,327
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

従来、当社グループの有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法については、主として定率法を採用しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

連結子会社の日本ノズル株式会社における新工場の建設及び大型メルトブローンノズル・ダイ製造設備の取得を契機に有形固定資産の使用実態を検討した結果、急激な技術的・経済的陳腐化のリスクが低くなり、また今後も耐用年数にわたり安定的に稼働していくことが見込まれることから、費用を均等に配分する定額法を採用することが、有形固定資産の使用実態をより合理的に反映すると判断いたしました。

この変更により、従来の方と比べて、当第1四半期連結累計期間の売上総利益が30千円増加し、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ573千円減少しています。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルスの感染拡大が、当第1四半期連結累計期間において会計上の見積りに与えている影響については、前連結会計年度の有価証券報告書の（追加情報）に記載した内容より重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	D-N e x t 事業	マテリアル サイエンス 事業	計	調整額 (注)1 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高							
外部顧客への売上 高	193,108	839,889	18,492	70,963	1,122,453	—	1,122,453
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	7,623	—	—	—	7,623	△7,623	—
計	200,732	839,889	18,492	70,963	1,130,077	△7,623	1,122,453
セグメント利益 又は損失(△)	△6,437	159,723	△72,211	△10,296	70,777	22,198	92,976

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間の取引の消去によるものであり、これは主としてグループ間の売上取引及び業務委託取引の消去によるものであります。

2 調整額の項目に含めた配賦不能営業費用はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:千円)

	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	D-N e x t 事業	マテリアル サイエンス 事業	計	調整額	合計額
減損損失	1,499	—	1,720	—	3,220	—	3,220

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	D-N e x t 事業	マテリアル サイエンス 事業	計	調整額 (注)1 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高							
外部顧客への売上高	206,415	420,625	16,458	1,431	644,930	—	644,930
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	17,462	—	—	—	17,462	△17,462	—
計	223,877	420,625	16,458	1,431	662,392	△17,462	644,930
セグメント利益 又は損失(△)	11,356	20,414	△82,949	△42,017	△93,195	5,163	△88,031

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間の取引の消去によるものであり、これは主としてグループ間の売上取引及び業務委託取引の消去によるものであります。

2 調整額の項目に含めた配賦不能営業費用はありません。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

「化学繊維用紡糸ノズル事業」において、新工場の建設及び大型メルトブローンノズル・ダイ製造設備の取得に伴い、固定資産が増加しました。これにより前連結会計年度の末日に比べ、「化学繊維用紡糸ノズル事業」のセグメント資産が、1,817,557千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:千円)

	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	D-N e x t 事業	マテリアル サイエンス 事業	計	調整額	合計額
減損損失	190	—	—	—	190	—	190

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの名称変更)

当第1四半期連結会計期間より、従来「電子材料スライス周辺事業」としていた報告セグメントの名称を「D-N e x t 事業」に変更しております。この変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の名称で記載しております。